




プログラム名	川に学ぼう ～しぜん・ちいき・くらし～	
実施団体	○団体名：カワラバン ○代表者名：菅原 正徳 ○電話：090-9745-3571 ○FAX：022-778-2683 ○住所：仙台市青葉区中山4-10-11 ○E-Mail：contact@kawara-ban.org ※プログラム提案団体：特定非営利活動法人 水・環境ネット東北（平成19年度）	
対象者	幼児、小学生、中学生、高校生、成人	
対象人数	120人	
学習場所	室内	
学習時間	90分	
実施時期	通年	
準備物品・費用等 (講師謝金を除く)	実施団体側	スライド資料（パワーポイント）、川の生き物、水槽、エアポンプなど
	利用者側	パソコン、プロジェクター、スクリーン、長机、水道水のくみ置きなど
事前打ち合わせ	実施希望日の1～2か月前	
効果的な学習段階	幼児の自然に親しむ活動として 小学校の場合1～2年生生活、3～4年理科・社会、5～6年理科・社会、3～6年総合の関連項目学習時	
学習概要	1. 学習のねらい	
	(1) 地域の川（広瀬川・名取川・七北田川・梅田川）の流れの様子や川に暮らす生き物について学ぶことで、川や地域への関心を高める。	
	2. 学習する内容	3. 学習のポイント
	(1) 川の流るの様子 ○上流・中流・下流の写真比べて違いを見つけます。 	(☆は小学校指導要領より、学習する内容がどの教科に関連するかを表しました。) ・小学5～6年生理科などの内容を含みますが、事前学習の場合でも比較や観察での気づきを元に、対象の学習段階に合わせて進めることができます。 ・石や水、周りの様子などに着目して、それぞれの場所でのどのような違いがあるか見つけます。石の大きさや形、流れの速さなどの違いに気付いたら、なぜそのような違いが生じるのか考えます。 ☆流る水のはたらき（5年生理科）

学習概要	○学区内を流れている川は上流・中流・下流のどこにあたるかを、流れの様子から考えます。	・流れの様子を一覧表にし、これまで自身が見た学区内の川は、上中下流のどこにあたるのかを、表をもとに発表します。（例：丸い石が多かったので中流だと思う。）
	○上流から海までの航空写真を使った動画で、流れの様子を再確認します。	・写真の比較だけでは分かりにくい川の周りの様子の違いや、川が曲がりくねって流れる様子などを動画で見ることでより理解を深めます。
		☆水はどこから、わたしたちの生活と環境（4年生、5年生社会）
	(2) 地域の川でくらす水生生物 ○川で採取してきた魚や水生昆虫を観察します。体の形や色、模様などに着目し、どのような特徴があるかを見つけてみます。	・名前を紹介してから特徴を教えるのではなく、気になる水生生物をよく観察しその特徴を発表してもらったのちに名前を紹介します。
	☆いきものとなかよし、生きものなかよし大作せん（1・2年生生活） ☆こん虫を調べよう、魚のたんじょう、生き物のくらしと環境（3年生、5年生、6年生理科）	
4. 学習のまとめ		
○川の流るの様子は場所によって様々な違いがある。 ○川の流るに様々な違いがあることにより、場所によって住んでいる水生生物が異なる。		
追加・変更できる学習内容	○水の循環を可視化して、くらしの中に様々な形で川の水が役立っていることを学ぶ内容も追加可能です。 ○幼児が対象の場合は水生生物の観察をメインにして、魚や水生昆虫の生態から川との関連を考える内容とします。 ○学年や目的に応じて、深めたい内容やそうでないものの時間配分や取り扱いを調整できます。	
事前・事後学習についての助言	プログラム「川で遊ぼう」とあわせて学習に取り入れるとより効果的です。	
雨天時の学習内容	台風等で観察用の水生生物が採取できない場合は、別の教材を利用して行います。	